

令和 4 年度

事業者番号

0037

事業所番号

003700

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	サンケン電気株式会社本社	前年度における事業所数	3
代表事業所所在地	市区町村	新座市	
	字・地番	北野三丁目6番3号	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	71 学術・開発研究機関		
分類番号(中分類)	71		
事業活動の概要	①本社 : 半導体製品、パワーモジュールの開発・設計 ②越生倉庫 : 製品倉庫 ③サンケンプラザ : 社員研修センター、社員寮 従業員数計 : 983名		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度	
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準となる排出量	1,796	t-CO ₂	基準となる原単位	0.0201	t-CO ₂ /百万円
	令和元年度(2019年度)を基準(1,796t-CO ₂)として排出量を毎年1%ずつ改善していきます。 ※上記基準値は2020年度における対象事業所(本社、越生倉庫、サンケンプラザ)の2019年度実績合計値。2020年度に報告した2019年度実績値とは異なる。						
	その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準となる排出量		t-CO ₂	基準となる原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	サンケン電気株式会社本社	新座市北野三丁目6番3号
2	越生倉庫	埼玉県入間郡越生町大字成瀬7番地
3	サンケンプラザ	埼玉県新座市野火止五丁目6番38号
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	938	1,106			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算 (t-CO₂)

		計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO ₂	基準 1,796	1,851	2,182			
	前年度比 (%)	—	17.9			
	基準となる排出量に対する削減率 (%)	-3.1	-21.5			
その他ガス	非エネルギー起源CO ₂					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六フッ化イオウ					
	三フッ化窒素					
温室効果ガスの合計		1,851	2,182			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO₂）

CO₂換算 (t-CO₂/指標)

		計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位	基準 0.0201	0.0228	0.0227			
	前年度比 (%)	—	-0.3			
	基準となる原単位に対する削減率 (%)	-13.2	-12.8			
活動規模の指標	単位					
売上	百万円	81,354.00	96,204.00			

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	<p>(排出量) 本社では空調設備の更新を実施したが、コロナウィルス感染対策として窓開放による換気をしまま空調設備を稼働していたため、例年以上のエネルギーを使用することになり、結果としてCO₂排出量が微増（+3.1%）となった。</p> <p>(排出量原単位) コロナウィルス感染の影響で半導体製品の需要が落ち込み、原単位計算の指標である売上高が大きく減少したため、結果的に排出量原単位は大幅増（+13.4%）となった。</p>
令和3年度 (2021年度)	<p>(排出量) 本社では新棟が稼働開始し、電力使用量が増加したが、旧棟では一部稼働が続いており、ゼロにはなっていない。旧棟→新棟による移行に際し、トータルでは増加となった（+17.9%）。</p> <p>(排出量原単位) コロナウィルス感染の影響から脱却し、需要大幅によって半導体製品生産量が増加したことに伴い、使用電力量が大幅に増加したが、原単位指標である売上高は増加しているものの、生産量に追いついていないため、結果的に排出量原単位は前年度比で微減（-0.3%）となった。</p>
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対策の区分			対策概要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区分名称					
		大区分	中区分				
1	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機更新 (10台)	R1以前	R1以前	33
2	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	既存照明のLED化	R1以前	R1以前	2
3	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	冷却水ポンプのインバータ化	R1以前	R1以前	7
4	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機更新 (3台)	R1以前	R1以前	3
5	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機更新 (10台)	R1以前	R1以前	22
6	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機更新	R1以前	R1以前	5
7	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機更新	R1以前	R1以前	6
8	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機更新	R1以前	R1以前	7
9	490200	その他	49_その他の削減対策	サーバーの移転	R1以前	R1以前	
10	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機更新	R1以前	R1以前	38
11	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	重油ボイラーの廃止	R5		1,900
12	490200	その他	49_その他の削減対策	評価設備を川越工場に移管	R1以前	R1以前	
13	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機更新	R1以前	R1以前	
14	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機更新	R2	R2	
15	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	照明器具のLED化(54台)	R3	R3	

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

1. ISO14001の取得

1999年6月にISO14001を取得し、地球温暖化対策や廃棄物の削減などに取り組んでいます。（ISO14001 2015年版にも2020年3月更新審査済み）

2. 地域社会に貢献

CSR活動として、当社内のみならず、地域の子供工作教室などを通じて、省エネ・地球温暖化などの啓蒙活動を行っています。

3. ESG経営への展開

特定されたマテリアリティを経営の中に落とし込み、社会への貢献と当社の持続的発展を結び付けています。サンケングループと社会との「つながり（Connect）」を基礎に、「自然とのつながり」「社会とのつながり」「信頼をつなぐ」という考え方のもとESG経営を展開しています。

4. 統合報告書

弊社ホームページにおいて、地球温暖化対策に関する弊社の考えや取り組みなどを掲載した「統合報告書」を公開しております。

<http://www.sanken-ele.co.jp/csr/index.htm>